

「世界最北の村が私を変えた」と題し探検家・かくはたゆうすけ角幡唯介さんが講演



12月26日、芦別出身のノンフィクション作家・探検家で、「星の降る里あしべつ応援大使」に就任した角幡唯介さんが講演を行いました。

これまで過酷な探検を元に数々の作品で文学賞などを受賞している角幡さん。会場に集まった約200人の聴衆を前に、世界最北の村グリーンランド・シオラパークを拠点とした

冬の北極探検について語りました。

「数か月間太陽が昇らない極夜きょくやの中を歩き続け、最初に太陽が昇ったとき人は何を想うのか」をテーマに、極寒の北極を犬ぞりで単独探検。写真と動画を交え、過酷な旅の様子や狩猟などの現地生活を紹介し、「長い暗闇の果てに太陽を見たときの感動は言葉にできない」と話しました。

安心安全で災害のないまちづくりへ 消防出初式が行われる

1月5日、総合福祉センターを主会場に「令和2年芦別消防出初式」が行われました。

安心安全で災害のないまちづくりを目指し、消防署職員と団員の士気高揚や連携強化、職務遂行への決意を新たにするための恒例行事です。

当日は、芦別消防署職員・団員合

わせて約160人と消防車両11台が参加し、市民が見守る一番街通りを分列行進。総合福祉センター駐車場で開会式が開かれた後、センター内大ホールで式典が行われました。

式典では各種表彰なども行われ、本市が災害や火災のない平穏な一年になるよう祈願しました。



全道から中学生が集まりバレーボール合宿を開催



北海道バレーボール協会の主催により、1月6日から12日の7日間、「第46回北海道ジュニアバレーボールキャンプ（2次キャンプ）」が市総合体育館などで行われました。

これはバレーボール技術や生活面での向上などを目的として、道内の中学生を対象に毎年開催されている

合宿で、今年も3つのグループに分かれ、女子40チーム、男子29チーム、合わせて724人の中学生が参加。

全道から集まった指導者のもと、選手たちは基礎から実戦形式まで内容の濃い練習にひたむきに取り組み、体育館には選手たちの活気ある大きな声が響き渡っていました。

成人式に新成人94人出席 大人の一步を踏み出す

1月12日、「令和2年成人式」が、市民会館大ホールで開催されました。

今年の市内での新成人対象者は、男性63人、女性55人の合わせて118人で、式典には華やかな振り袖やスーツに身を包んだ94人が出席。

新成人を代表して、金丸晴太郎さんと中村文香さんが「大人としての責任と自覚」を力強く宣言しました。

式典後には「ふれあい広場」が開かれ、新成人たちは同級生との再会を楽しんだり、記念写真を撮り合うなど、新たな門出に相応しく会場は華やかな雰囲気包まれていました。

また、中学時代の恩師から祝福のビデオメッセージも届くなど、新成人にとって大人の一步を踏み出す新たな一日となりました。

